〈文・前島文彦、

写真・靏田

国土交通省富士川砂防事務所

ど、新たな懸念材料も生まれて

県内の課題を追った。

高齢化に伴う災害弱者の拡大な

雨」が最近目立ち始め、

で局地的に雨が降る「ゲリラ豪 備が進められた。一方、短時間 に、県内では砂防施設などの整 雨災害。昭和34年の災害を教訓 害が出ている。なくならない豪

IJ

が出た1959 (昭和34) 年の

山梨県内で105人の犠牲者

接近に伴う豪雨で、西日本で多 数の死者・行方不明者を出す被

豪雨対策

た。想定していたのは、

防事務所。半世紀をかけて、

台風災害から55年。 今月も台風

測不能な局地的 象雨は「ゲリラ

のみ込んだ。予

豪雨」 と名付け

1959年の台風災害を受

前線の活発化に伴うまとまった 無川支流の整備が進められてき 60年に設置された富士川砂 での時間も計測できるようにな での降雨が下流域に到達するま 正確に把握することで、上流域 河道調査に着手。距離や川幅を 事務所は今年3月、大武川の

これまでクローズアップされな しかし今、 ゲリラ豪雨など 内の集中豪雨の発生頻度は増え る傾向にある。1時間に30%以 甲府地方気象台によると、

かった気象への対応を迫られて

発生頻度は増加 は年平均11・1回だったが、98~ 上の激しい雨は1988~97年

安定になって積乱雲が発生しや

ル 成 元 物 の 式 家 レーダーと 砂田 憲吾 同大大学院教授 研究グループの佐野哲也特任助教。データの蓄積 て、ゲリラ豪雨の予測につなげたい考えだ =山梨大甲府キャンパス 雲発達 予測

未体験の災害に備えるため

遊んでいた子どもら5人の命を

かと思うと一気に減水。川辺で 激しい雨で何も見えなくなった かな川面が徐々に膨れ上がり、 じみの深い川だった。その穏や

市の中心部を流れる都賀川はな 長を務めた吉川さんにとって、 雨。04~05年に六甲砂防事務所 **息をのんだ。昨年7月の集中豪** 流れる神戸市の都賀川の映像に の吉川知弘所長は、テレビから

まった降雨がなかったためだ。 駅から西にわずか1・5き離れ 降雨自体は確認したものの、甲 間の豪雨。しかし、アメダスでは 時ごろ、大粒の激しい雨が駅前 東地域を見舞った夕立。午後6 テム(アメダス)では把握しにく すくなったのが一因とされる。 府の降水量観測値はOnの甲府 を歩く人たちや通行車両のフロ た甲府地方気象台付近に、まと にJR甲府駅周辺から甲府・城 いという課題もある。8月3日 トガラスをたたいた。約30分 局地豪雨は地域気象観測シス

蒸気量が増え、大気の状態が不 2007年は17・7回。50以上 の雨も年平均1・6回から2回 に増えた。温暖化で大気中の水 だけだ。 るのは、 バーする。 研究所(つくば市)と名古屋大 今年4月、最先端の気象レーダ 月3日の夕立も、山梨大のレー ダスが「降水量のデ」とした8 雨をとらえることができ、 いる山梨大甲府キャンパスから ーを導入。 る研究が進められる。山梨大は 局地豪雨や雨雲の発達を予測す 山梨大のレーダーはゲリラ夢 観測範囲は設置されて 国内では防災科学技術 同型レーダーを備え 甲府盆地をほぼ力

の発生を予測できる可能性があ 半径2きの範囲で強い雨を確認 るという。 ための研究を進める。局地豪雨 今後、実際の降水量を把握する 定する段階で、研究グループは 情報から降雨の位置と強さを推 発達する様子を克明にとらえ、 ダーは南東3き付近で、雨雲が 現在は雨粒が反射した電波の

する挑戦は始まったばかりだ。 のデータを蓄積して、滅災につ 確な気象情報を得ること。豪雨 授)。ゲリラ豪雨の動きを先読み ダーの砂田憲吾同大大学院教 ながる情報を提供したい」(リー タイム情報を、ホームページで 公開する予定。「防災の基本は正 年度内にはレーダーのリアル